

きた じょうばし
北の城橋

伊那峡に架かるつり橋

つり橋としては天竜川の最上流に架かる橋。たびたび水害に遭うため渡船が常用されていたが、1928(昭和3)年につり橋が架けられた。現在の橋は1958(昭和33)年7月の豪雨災害による崩落の後に修復されたもの。名前の由来は、中世の史跡「北の城」による。信濃の橋百選に選定されている。



上流の開けた視界に、赤いつり橋が映える
(橋の下流から、上流を望む)



下流は、奇岩も多い伊那峡
(北の城橋から、下流を望む)



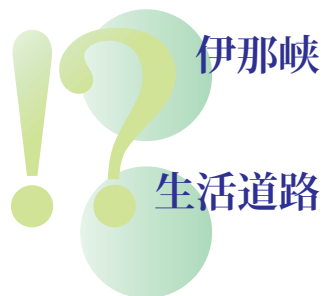
information

□ アクセス

駒ヶ根ICから10km
車→20分

□ 所在地

宮田村中越～
駒ヶ根市東伊那



伊那峡

天竜川の川幅が狭まった宮田村と駒ヶ根市の間に「伊那峡」と呼ばれる渓谷がある。下流に大久保発電所が完成し、堰き止めた水によりダム湖ができて、豊かな水をたたえた伊那峡の景色をつくっている。

生活道路

「5トンを超える車両は通行できない」という制限があり、板張り、交互通行など時代を感じさせる橋だが、天竜川兩岸の住民の生活道路として欠かせない存在の橋。右岸周辺は、宮田村リバーランド天竜公園として整備されている。



(国土地理院の数値地図50000(地図画像)を使用)